

教育を取り巻く状況について

人口減少・高齢化の進展

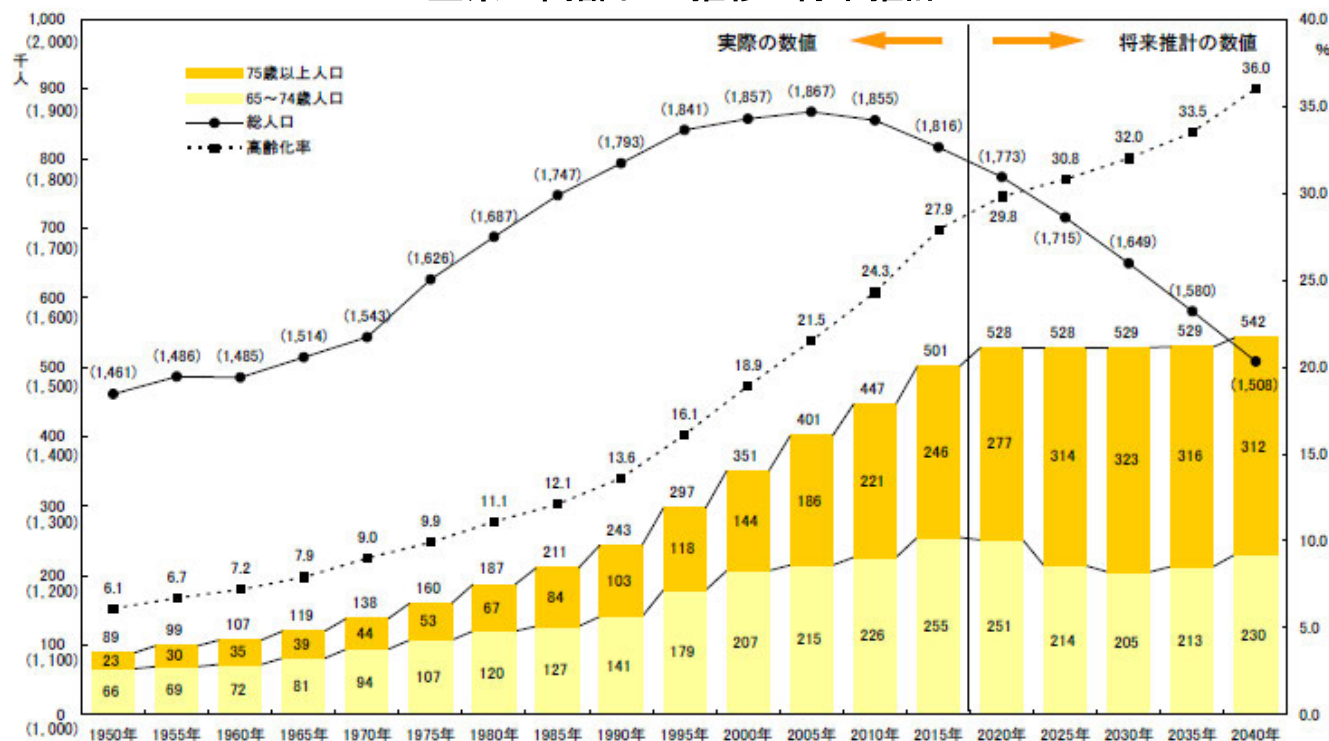
1 三重県の総人口の推移および将来推計

○本県の総人口は1,798,886人、65歳以上人口は515,596人、高齢化率（老年人口割合）は28.7%となっている。（平成29年10月1日現在）

○総人口は、2005年頃をピークに減少傾向にあるが、高齢化率は一貫して上昇傾向にあり、2020年以降に30%を超えるると推測されている。

○特に75歳以上（後期高齢者）人口が増加傾向にある。

三重県の高齢化の推移と将来推計



資料：2015年以前は総務省統計局「国勢調査」、2020年以後は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

出典：「みえ高齢者元気・かがやきプラン（第7期三重県介護保険事業支援計画及び第8次三重県高齢者福祉計画）（平成30年3月）」

2 人口増減率(平成28年10月～平成29年9月)

○本県の人口増減率は0.48%の減少で、全国順位は20位となっている。

○県内では、朝日町が大きく増加し、ついで菰野町、東員町も増加している。その他の22市町では減少している。

○特に県南部地域では、人口減少率が高い傾向にある。

都道府県別人口増減率

(単位：%)

都道府県	値	順位
全国	△ 0.18	
東京都	0.73	1
埼玉県	0.28	2
沖縄県	0.26	3
愛知県	0.24	4
千葉県	0.16	5
三重県	△ 0.48	20
高知県	△ 1.01	43
山形県	△ 1.03	44
岩手県	△ 1.04	45
青森県	△ 1.16	46
秋田県	△ 1.40	47

本県の市町別人口増減率 (単位：%)

市町	値	順位
朝日町	1.35	1
菰野町	0.37	2
東員町	0.31	3
亀山市	0.14	4
川越町	0.11	5
鈴鹿市	0.09	6
明和町	0.05	7
四日市市	△ 0.10	8
桑名市	△ 0.27	9
津市	△ 0.31	10
いなべ市	△ 0.45	11
松阪市	△ 0.70	12
玉城町	△ 0.71	13
伊勢市	△ 0.77	14
木曽岬町	△ 0.80	15
度会町	△ 0.87	16
名張市	△ 0.94	17
多気町	△ 0.98	18
伊賀市	△ 0.99	19
熊野市	△ 1.53	20
紀宝町	△ 1.56	21
大台町	△ 1.71	22
志摩市	△ 1.73	23
尾鷲市	△ 2.12	24
紀北町	△ 2.23	25
御浜町	△ 2.32	26
鳥羽市	△ 2.54	27
南伊勢町	△ 2.98	28
大紀町	△ 2.99	29

出典：総務省統計局「人口推計」、三重県戦略企画部統計課「三重県月別人口調査結果」(平成29年10月1日現在)

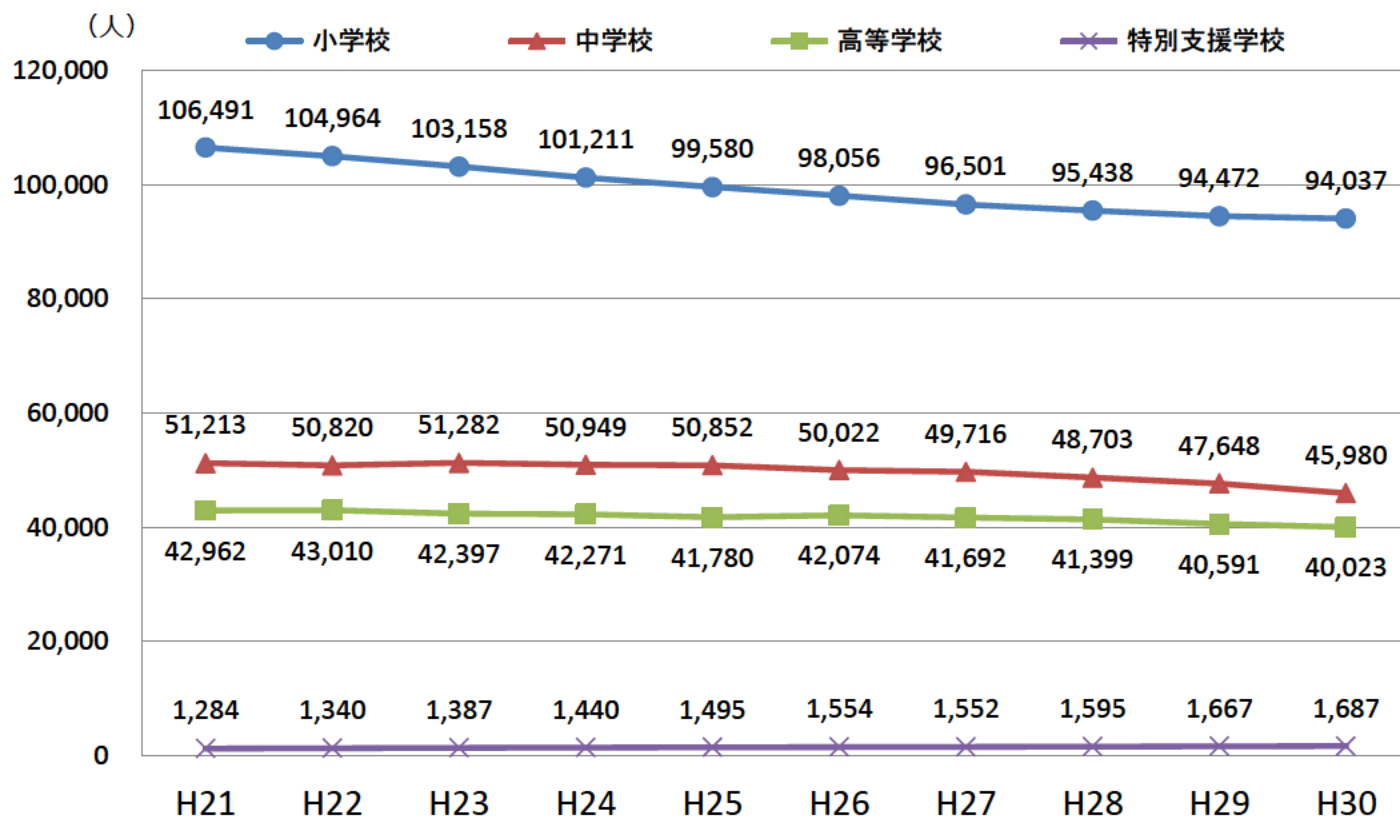
注)人口増減率(%)= 人口増減(前年10月-当年9月)÷前年10月1日現在人口×100

人口増減 = 自然増減+社会増減

3 人口減少に伴う児童生徒数・学校数の推移(三重県)

- 本県における公立の小学校・中学校・県立高等学校の児童生徒数は、年々減少している。
- 特別支援学校に在籍する児童生徒数は、増加傾向にある。

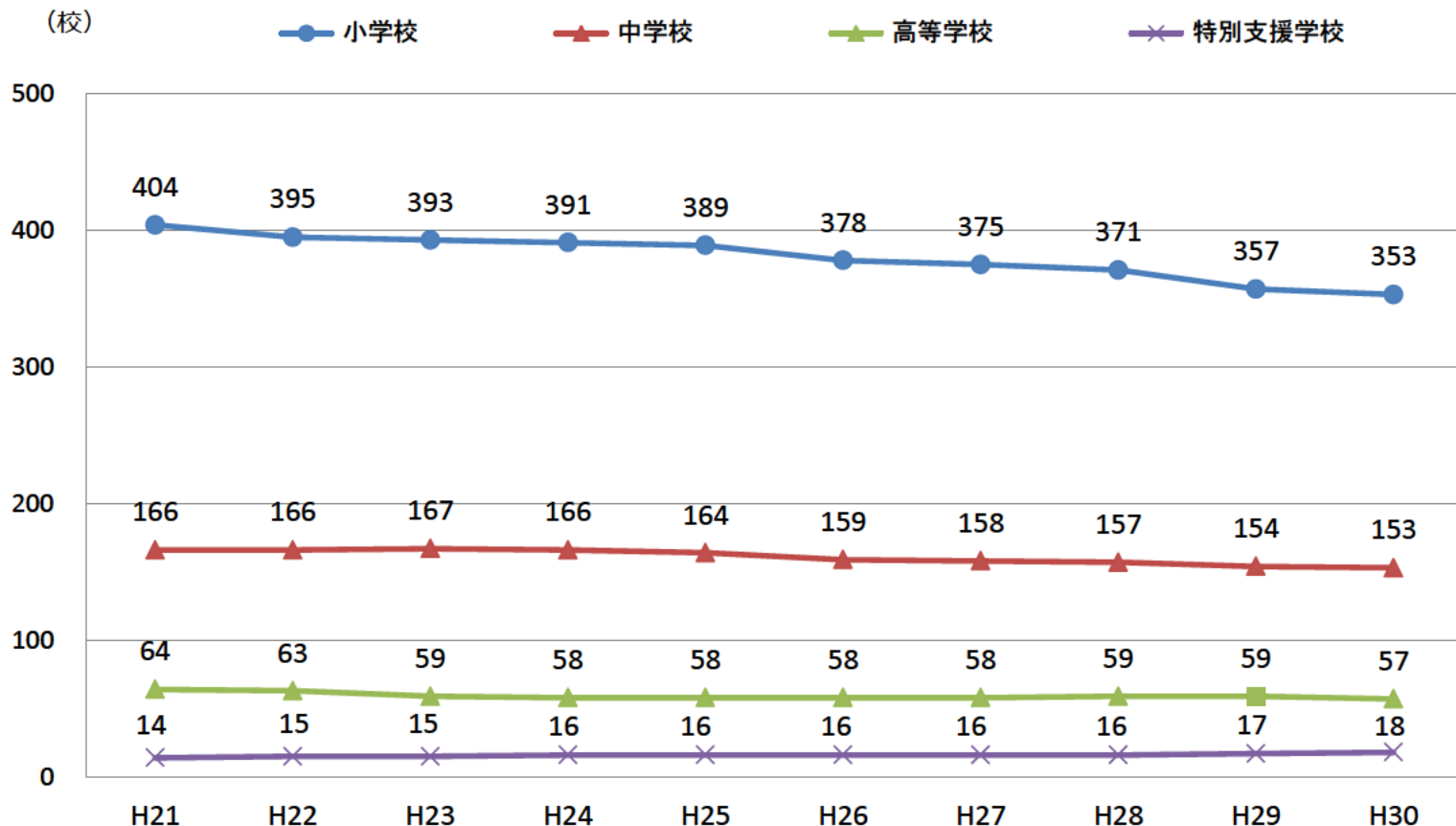
公立学校の児童生徒数の推移 (三重県)



三重県教育委員会調べ (平成30年5月1日現在)

○本県における公立の小学校・中学校・県立高等学校の学校数は、年々減少している。

公立学校数の推移（三重県）

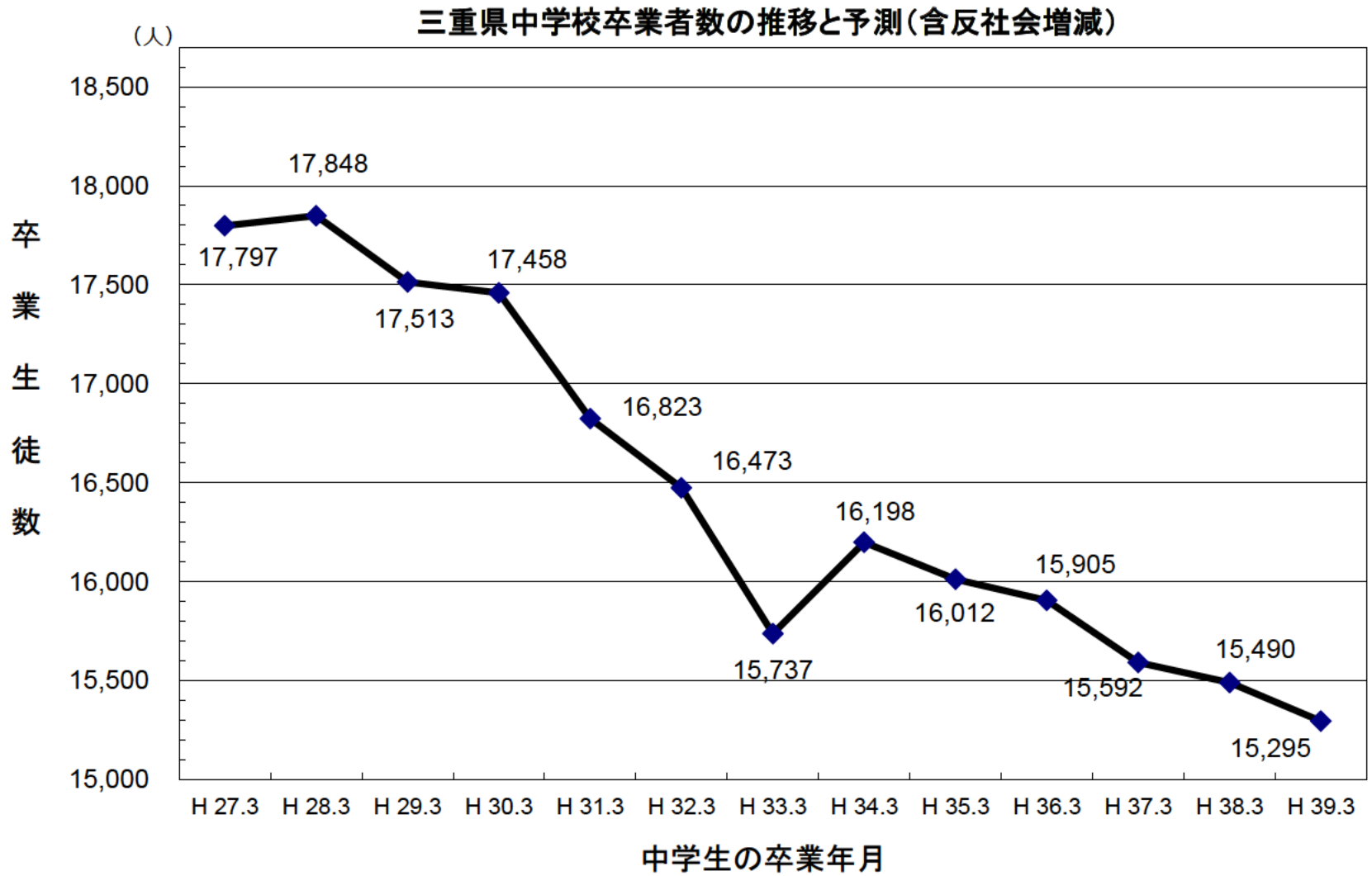


※休校含まず

三重県教育委員会調べ（平成30年4月1日現在）

※県立高等学校については、全日制と併設の定時制、通信制については学校数の合計から除く。

4 今後の中学校卒業生数の推移と予測(三重県)



三重県教育委員会調べ(平成30年5月1日現在)

三重県 中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

単位：(人)

		H 27.3 卒業	H 28.3 卒業	H 29.3 卒業	H 30.3 卒業	H 31.3 現中3	H 32.3 現中2	H 33.3 現中1	H 34.3 現小6	H 35.3 現小5	H 36.3 現小4	H 37.3 現小3	H 38.3 現小2	H 39.3 現小1
桑名	卒業生数	2,203	2,131	2,127	2,021	2,048	1,979	1,945	1,988	1,967	1,954	1,975	1,911	1,933
	前年度対比		-72	-4	-106	27	-69	-34	43	-21	-13	21	-64	22
	H30.3対比					27	-42	-76	-33	-54	-67	-46	-110	-88
四日市	卒業生数	3,786	3,844	3,837	3,844	3,629	3,580	3,415	3,606	3,418	3,448	3,405	3,536	3,378
	前年度対比		58	-7	7	-215	-49	-165	191	-188	30	-43	131	-158
	H30.3対比					-215	-264	-429	-238	-426	-396	-439	-308	-466
小計	卒業生数	5,989	5,975	5,964	5,865	5,677	5,559	5,360	5,594	5,385	5,402	5,380	5,447	5,311
	前年度対比		-14	-11	-99	-188	-118	-199	234	-209	17	-22	67	-136
	H30.3対比					-188	-306	-505	-271	-480	-463	-485	-418	-554
鈴鹿	卒業生数	2,573	2,644	2,495	2,553	2,453	2,423	2,229	2,428	2,235	2,460	2,266	2,239	2,211
	前年度対比		71	-149	58	-100	-30	-194	199	-193	225	-194	-27	-28
	H30.3対比					-100	-130	-324	-125	-318	-93	-287	-314	-342
津	卒業生数	2,758	2,693	2,657	2,684	2,622	2,674	2,591	2,489	2,615	2,596	2,487	2,488	2,438
	前年度対比		-65	-36	27	-62	52	-83	-102	126	-19	-109	1	-50
	H30.3対比					-62	-10	-93	-195	-69	-88	-197	-196	-246
伊賀	卒業生数	1,496	1,607	1,530	1,549	1,515	1,447	1,416	1,406	1,376	1,385	1,355	1,330	1,353
	前年度対比		111	-77	19	-34	-68	-31	-10	-30	9	-30	-25	23
	H30.3対比					-34	-102	-133	-143	-173	-164	-194	-219	-196
小計	卒業生数	6,827	6,944	6,682	6,786	6,590	6,544	6,236	6,323	6,226	6,441	6,108	6,057	6,002
	前年度対比		117	-262	104	-196	-46	-308	87	-97	215	-333	-51	-55
	H30.3対比					-196	-242	-550	-463	-560	-345	-678	-729	-784
松阪	卒業生数	1,982	2,012	1,986	2,003	1,932	1,919	1,790	1,873	1,952	1,841	1,871	1,799	1,784
	前年度対比		30	-26	17	-71	-13	-129	83	79	-111	30	-72	-15
	H30.3対比					-71	-84	-213	-130	-51	-162	-132	-204	-219
伊勢	卒業生数	2,319	2,277	2,263	2,192	2,084	1,971	1,829	1,892	1,962	1,748	1,809	1,749	1,771
	前年度対比		-42	-14	-71	-108	-113	-142	63	70	-214	61	-60	22
	H30.3対比					-108	-221	-363	-300	-230	-444	-383	-443	-421
尾鷲	卒業生数	340	289	279	281	238	228	248	245	215	206	189	192	195
	前年度対比		-51	-10	2	-43	-10	20	-3	-30	-9	-17	3	3
	H30.3対比					-43	-53	-33	-36	-66	-75	-92	-89	-86
熊野	卒業生数	340	351	339	331	302	252	274	271	272	267	235	246	232
	前年度対比		11	-12	-8	-29	-50	22	-3	1	-5	-32	11	-14
	H30.3対比					-29	-79	-57	-60	-59	-64	-96	-85	-99
小計	卒業生数	4,981	4,929	4,867	4,807	4,556	4,370	4,141	4,281	4,401	4,062	4,104	3,986	3,982
	前年度対比		-52	-62	-60	-251	-186	-229	140	120	-339	42	-118	-4
	H30.3対比					-251	-437	-666	-526	-406	-745	-703	-821	-825
県内合計	卒業生数	17,797	17,848	17,513	17,458	16,823	16,473	15,737	16,198	16,012	15,905	15,592	15,490	15,295
	前年度対比		51	-335	-55	-635	-350	-736	461	-186	-107	-313	-102	-195
	H30.3対比					-635	-985	-1,721	-1,260	-1,446	-1,553	-1,866	-1,968	-2,163

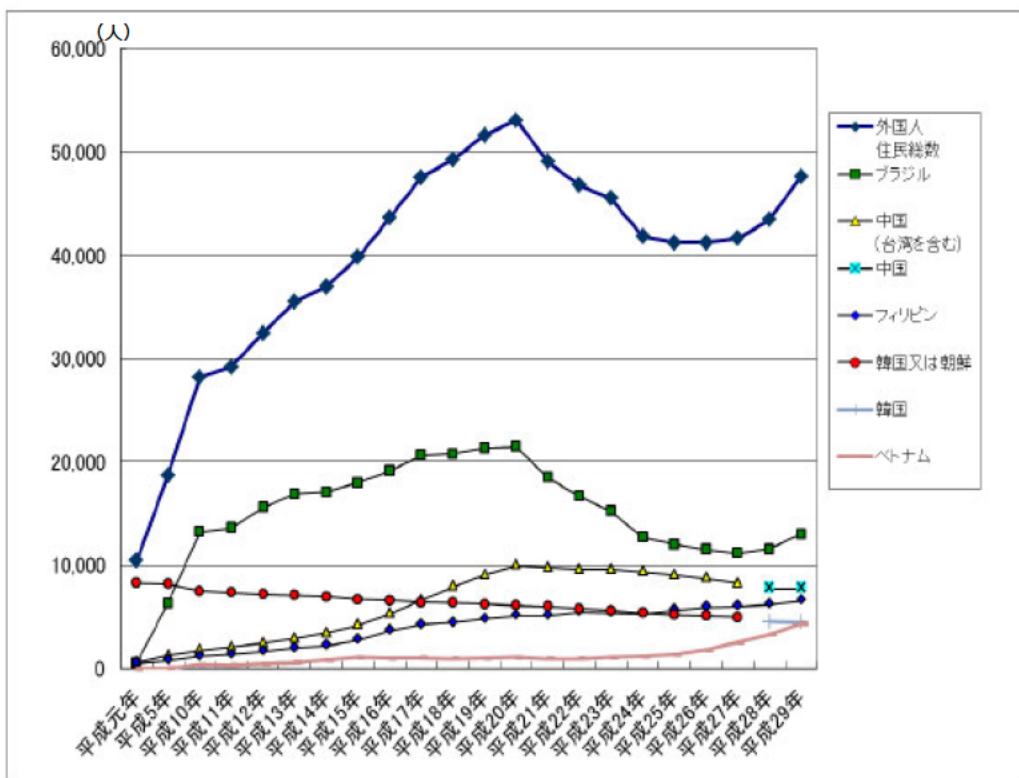
グローバル化の進展

1 外国人住民数(三重県)

○平成29年末現在の三重県内の外国人住民数は47,665人（前年比4,220人、9.7%増）

○外国人住民数は平成20年をピークに、経済状況の悪化に伴い減少を続けていたが、平成26年以降4年連続で増加しており、平成元年（10,441人）の4.57倍、10年前の平成19年（51,638人）の0.92倍となっている。

外国人住民数の推移



○県内総人口に占める外国人住民の割合 **2.60%**（前年より0.24ポイント増、**全国第4位**）※「平成29年版在留外国人統計」（平成29年11月16日法務省）

○国籍・地域別の外国人住民数は、多い国から順に、**ブラジル、中国、フィリピン、韓国、ベトナム**となっている。出身国籍の数は107か国である。

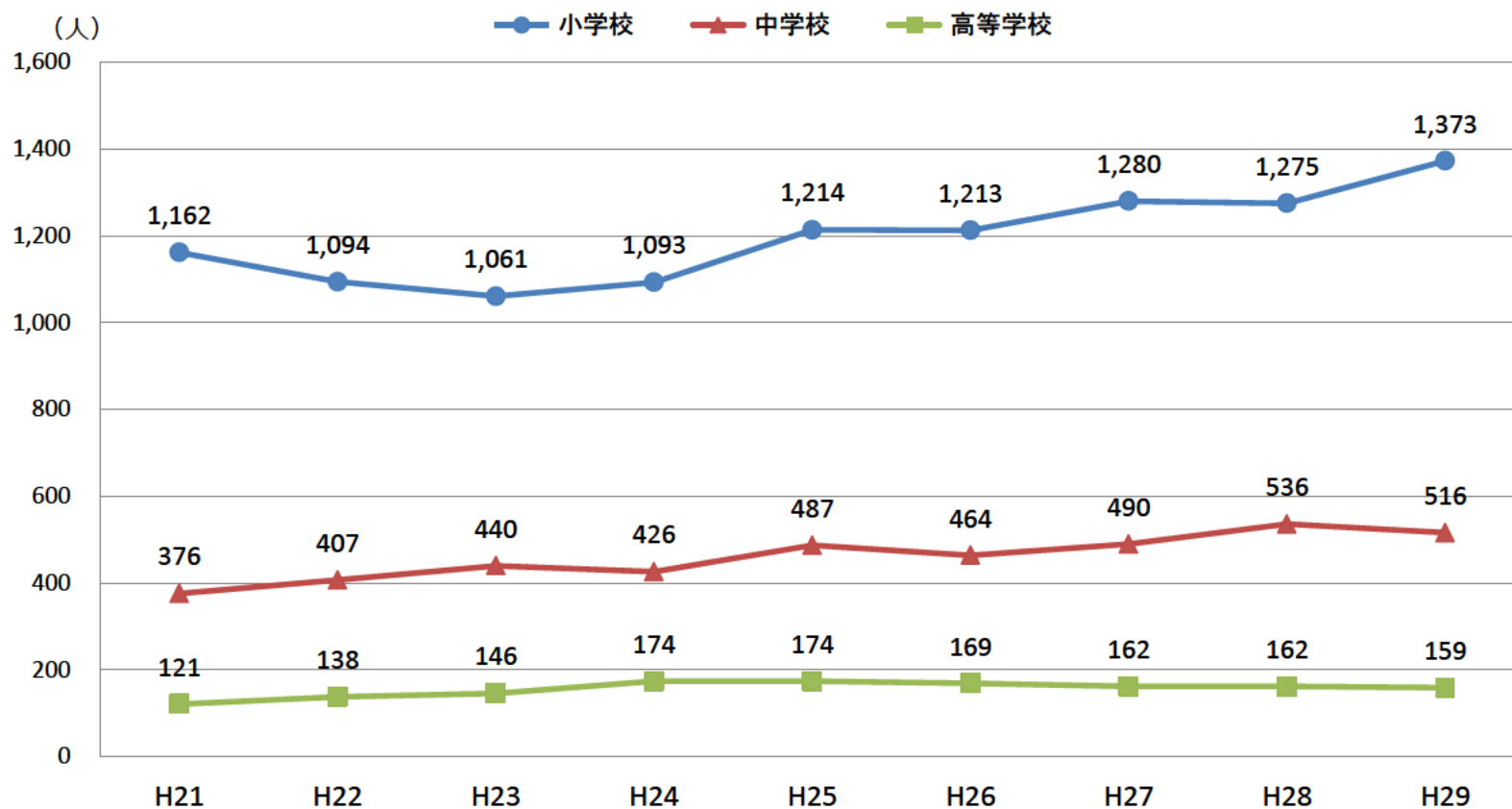
国籍・地域別順位上位5か国の外国人住民数が多い市町

国籍	第1位	第2位	第3位
ブラジル	鈴鹿市 3,432人 12,993人 (26.4%)	四日市市 2,199人 (16.9%)	津市 2,118人 (16.3%)
中国	四日市市 1,511人 7,734人 (19.5%)	津市 1,495人 (19.3%)	鈴鹿市 899人 (11.6%)
フィリピン	松阪市 2,349人 6,554人 (35.8%)	津市 1,298人 (19.8%)	四日市市 792人 (12.1%)
韓国	四日市市 1,502人 4,436人 (33.9%)	桑名市 650人 (14.7%)	鈴鹿市 518人 (11.7%)
ベトナム	津市 865人 4,332人 (20.0%)	四日市市 700人 (16.2%)	桑名市 458人 (10.6%)

2 日本語指導が必要な外国人児童生徒数の推移(三重県)

○外国人住民数の増加に伴い、日本語指導が必要な外国人児童生徒数は、増加傾向にある。

本県における日本語指導が必要な外国人児童生徒数

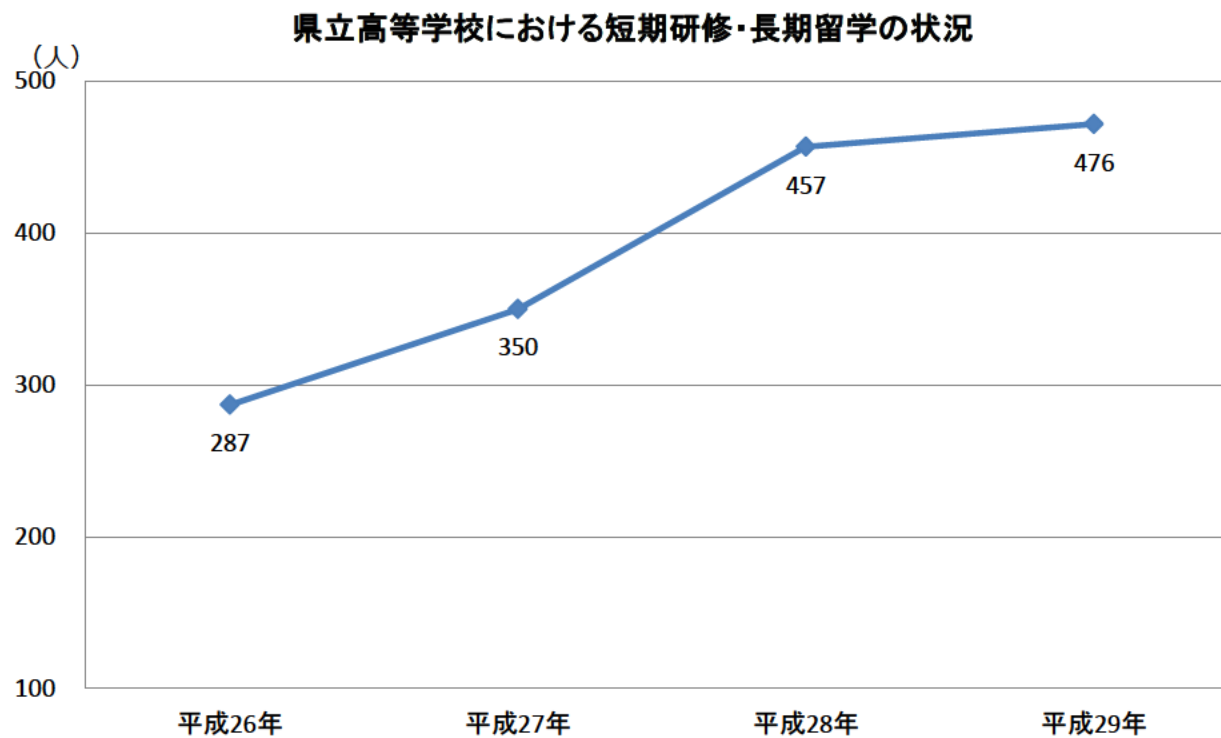


三重県教育委員会調べ（平成29年9月1日現在）

3 県立高等学校における海外への短期研修・長期留学の状況(三重県)

○海外へ短期研修・長期留学する本県の県立高等学校の生徒数は、増加傾向にある。

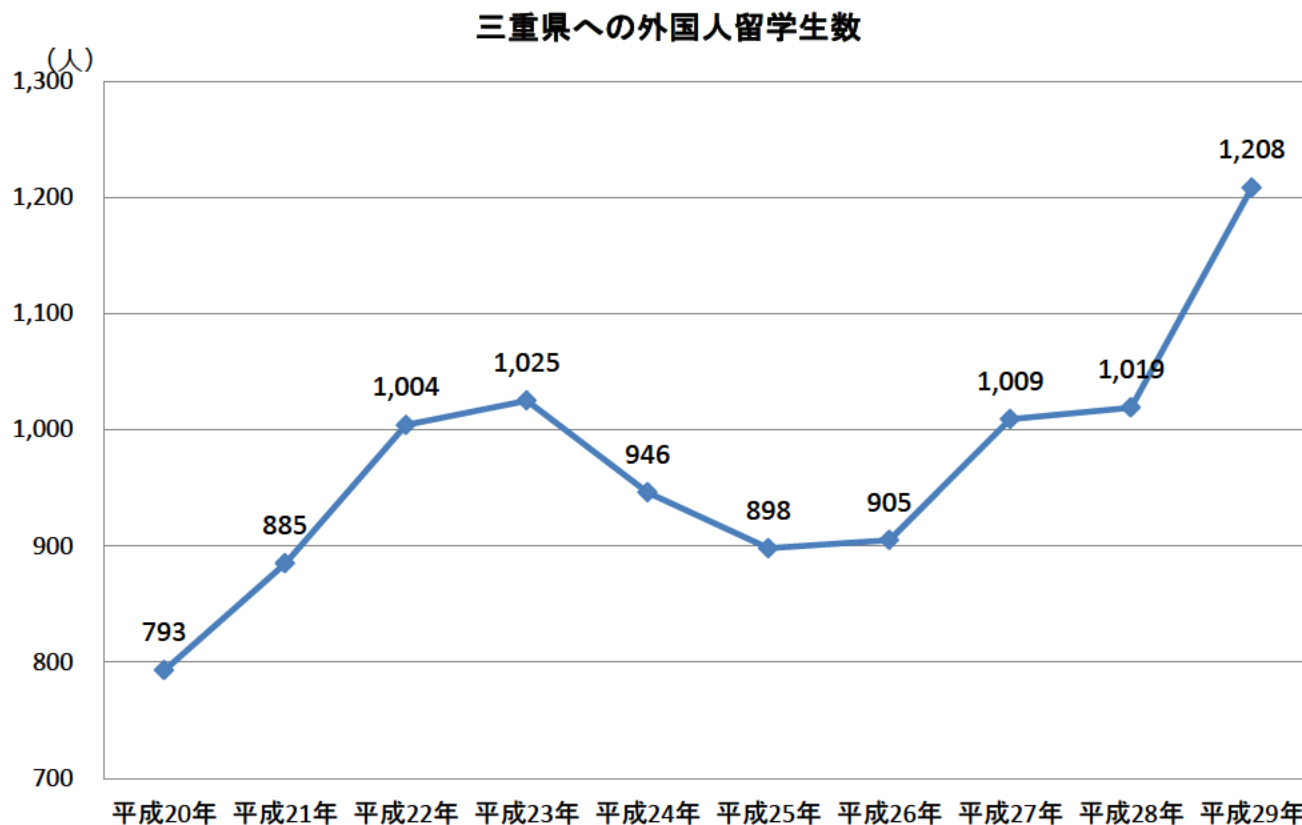
これは、平成28年度以降、「三重県立高校生短期海外研修旅行」の実施や、海外留学にかかる経費の一部支援、職業学科の生徒を対象とした海外の県内企業等で実習を行う海外インターンシップを新たに実施したことによる。



出典:三重県教育委員会調べ(各年5月1日時点)

4 三重県への外国人留学生数の推移

○県内への留学生は平成23年をピークに一時減少傾向にあったが、平成26年以降増加に転じている。



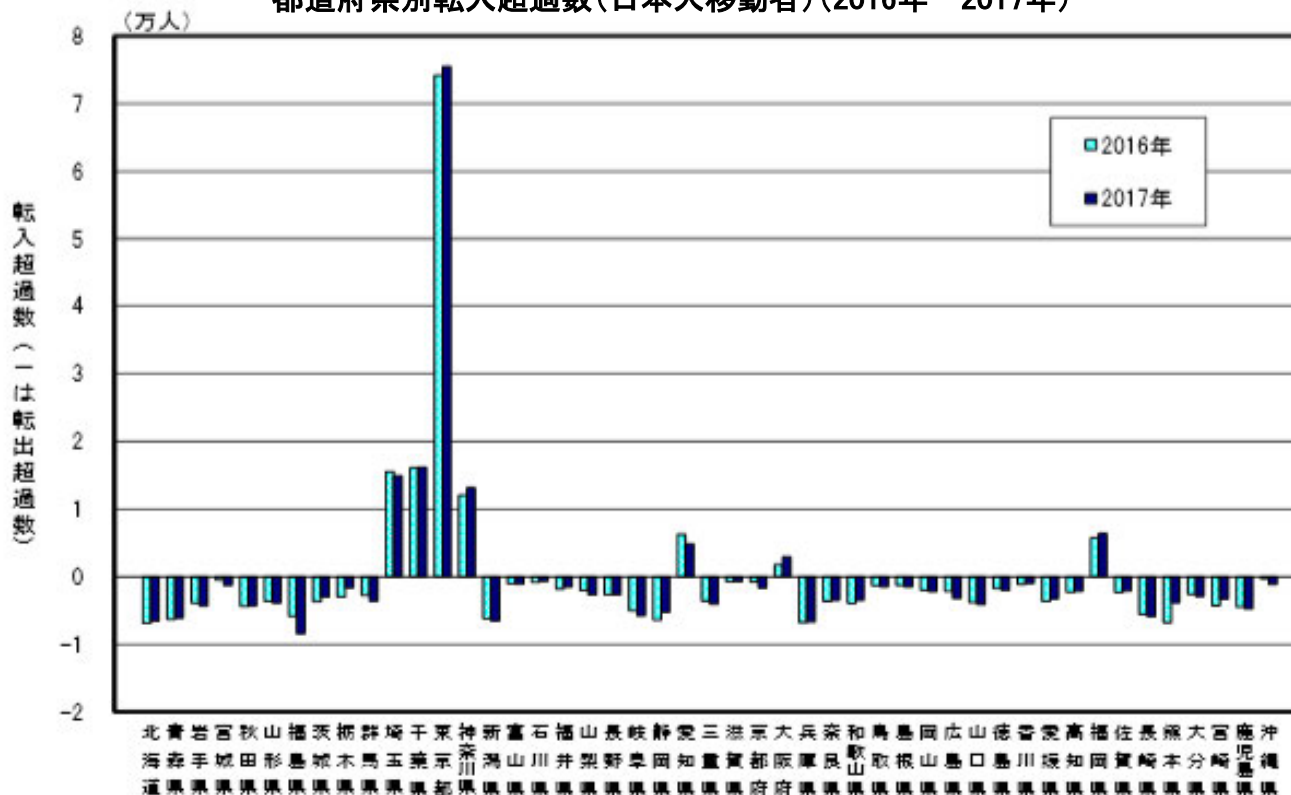
出典:「外国人留学生在籍状況調査結果」(JASSO「独立行政法人日本学生支援機構」調べ)各年5月1日現在の留学生数
※平成26年度より高等教育機関及び日本語教育機関における総数を本調査における留学生数としている。

地域課題（都市圏への転入・東京一極集中）

1 都道府県別転入超過数(全国)

- 進学や就職を機に、若年層を中心として地方圏から都市圏への転入が続いている。
- 転入超過数が最も多いのは東京都、次いで千葉県、埼玉県、神奈川県、福岡県、愛知県及び大阪府の7都府県。転入超過数は愛知県及び埼玉県を除く5都府県で増加している。
- 転出超過数は福島県が最も多く、次いで兵庫県、北海道、新潟県など40道府県が転出超過となっている。

都道府県別転入超過数(日本人移動者)(2016年-2017年)

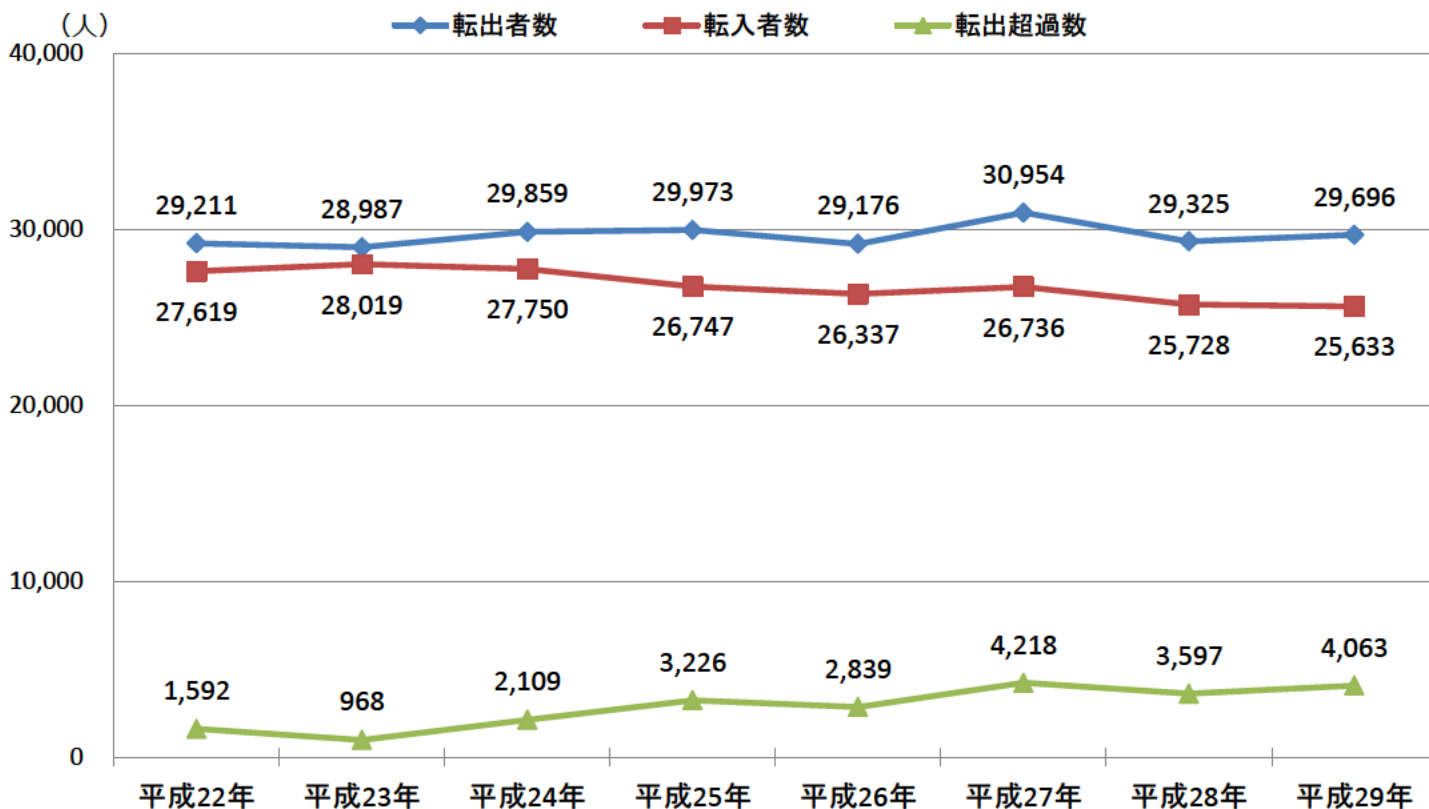


2 転出超過数、転入者数、転出者数の推移(三重県)

○2017（平成 29）年の住民基本台帳人口移動報告によると、本県における転出超過数は4,063人で、前年の転出超過数3,597人より466人増加した。

○2010（平成22）年以降の推移をみると、転出者数は2015（平成27）年に30,000人を超えたが、その他の年は29,000人台で推移している。転入者数は減少傾向にある。

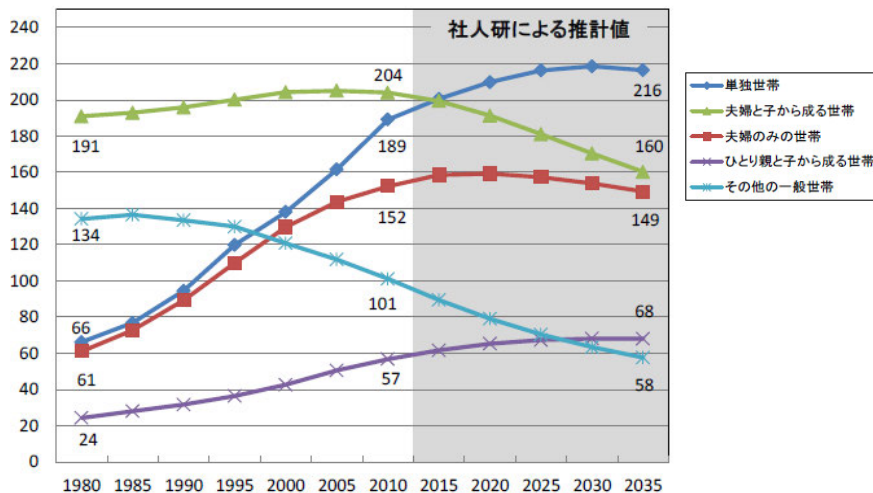
三重県における転出超過数、転入者数、転出者数の推移



地域や家庭の状況の変化

- 夫婦と子から成る世帯及び三世帯同居世帯（「その他の一般世帯」に含まれる）等が減少する一方、単独世帯が大きく増加している。
- 「となり近所とのおつきあいを、どの程度されていますか」という質問に対して、「あまりつきあっていない」「つきあっていない」と答えた県民の割合が合わせて35%を超えている。
- 「近所の子どもをほめたことがあるか」という質問に対して、「あまりない」「ない」と答えた県民の割合が合わせて50%を超えている。

（千世帯） 家族類型別一般世帯数の推移（三重県）



※2010年までの世帯数は国勢調査より作成
 ※2015年以降の世帯数は社人研「日本の世帯数将来推計（都道府県）」より作成

三重県戦略企画部統計課「三重県人口ビジョン」（平成27年10月）

三重県子ども条例に基づく調査・県民調査（三重県）

Q.1 あなたは、となり近所とのおつきあいを、どの程度されていますか。(〇は1つだけ)

項目	県民	
	回答数(人)	比率(%)
よくつきあっている	224	15.5
ある程度つきあっている	697	48.4
あまりつきあっていない	385	26.7
つきあっていない	132	9.2
無回答	3	0.2
総計	1,441	100.0

Q.2-1 あなたは、近所の子どもとあいさつをしていますか。(〇は1つだけ)

項目	県民	
	回答数(人)	比率(%)
いつもしている	518	35.9
ときどきしている	489	33.9
あまりしていない	250	17.3
していない	172	11.9
無回答	12	0.8
総計	1,441	100.0

Q.2-2 あなたは、近所の子どもをほめたことはありますか。(〇は1つだけ)

項目	県民	
	回答数(人)	比率(%)
よくある	152	10.5
ときどきある	501	34.8
あまりない	392	27.2
ない	384	26.6
無回答	12	0.8
総計	1,441	100.0

Q.2-3 あなたは、近所の子どもを注意したことはありますか。(〇は1つだけ)

項目	県民	
	回答数(人)	比率(%)
よくある	57	4.0
ときどきある	356	24.7
あまりない	501	34.8
ない	515	35.7
無回答	12	0.8
総計	1,441	100.0

三重県子ども・福祉部少子化対策課「みえの子ども白書2016」(平成28年2月)
 三重県子ども条例に基づく調査・県民調査の結果概要(単純集計)

子どもたちの姿

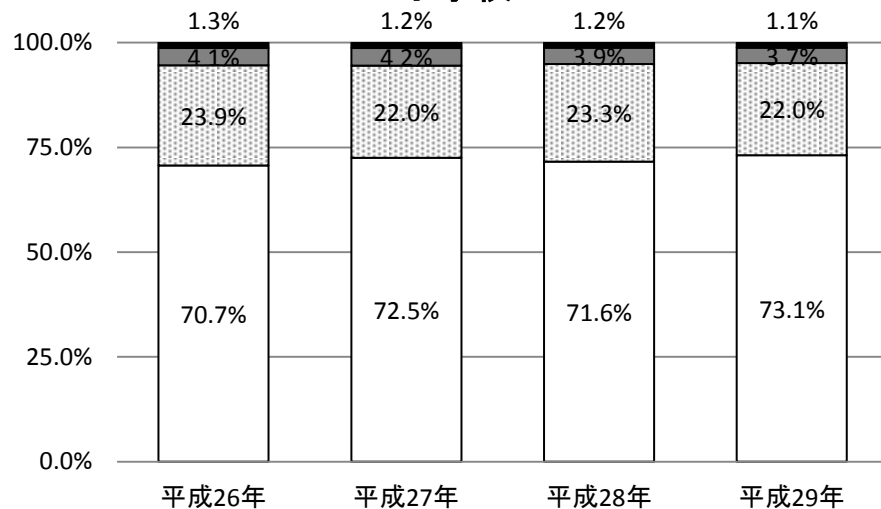
1 児童生徒の自尊感情・自己肯定感に関する状況

①平成29年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙（三重県）より

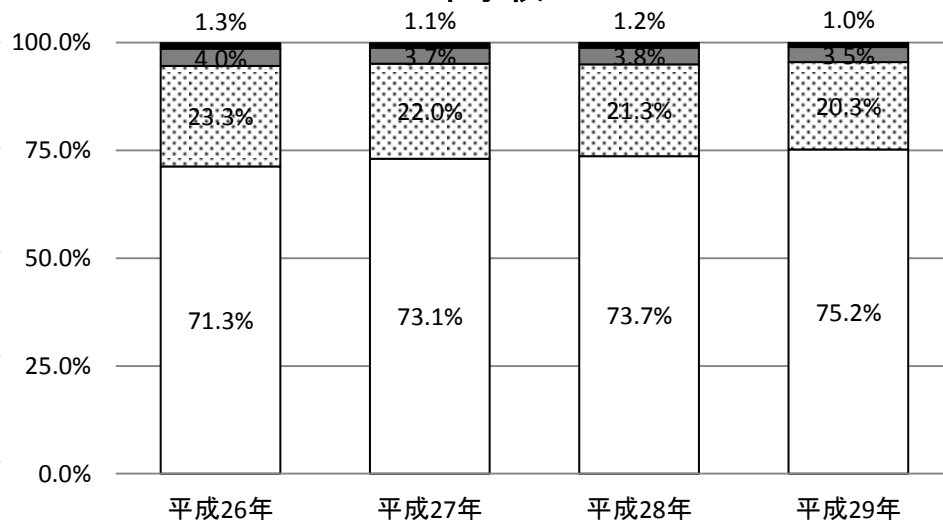
○どの質問も肯定的に回答した児童生徒の割合は増加傾向にある。多くの大人が関わり励ますことで、児童生徒の自尊感情・自己肯定感が継続的に高まってきている。

Q ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか

小学校



中学校



□ 当てはまる

▨ どちらかと言えば、当てはまる

▩ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

□ 当てはまる

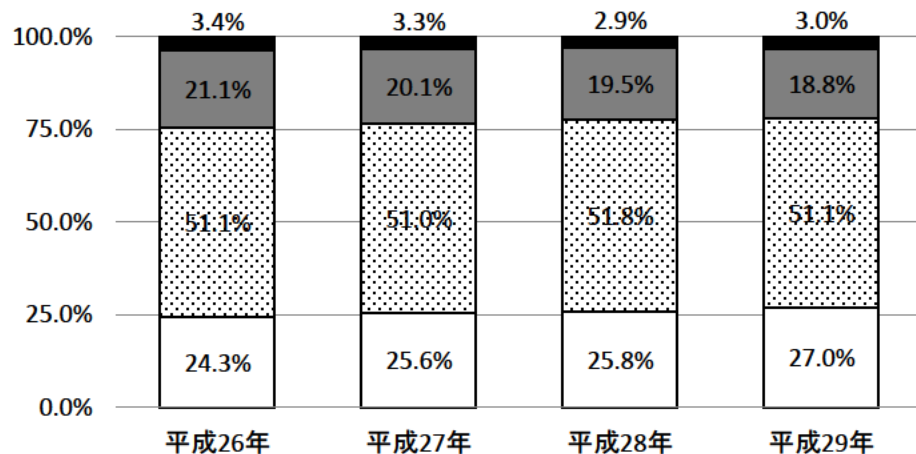
▨ どちらかと言えば、当てはまる

▩ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

※ グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

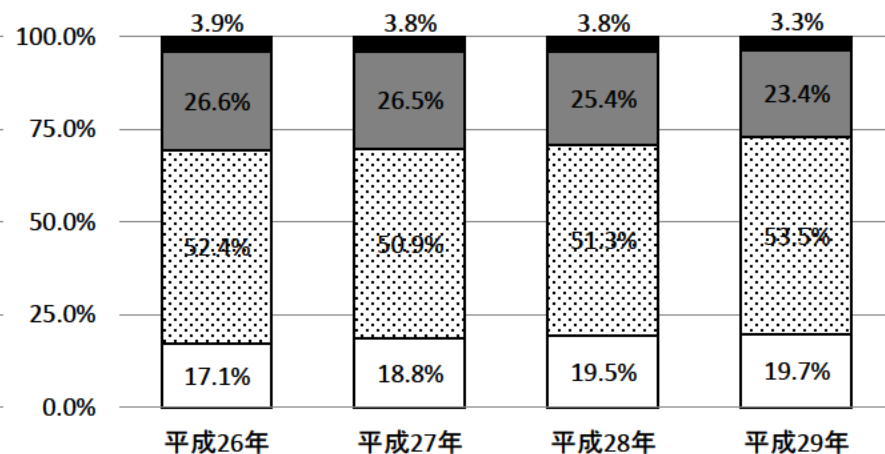
Q 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか

小学校



- 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる
 ■ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

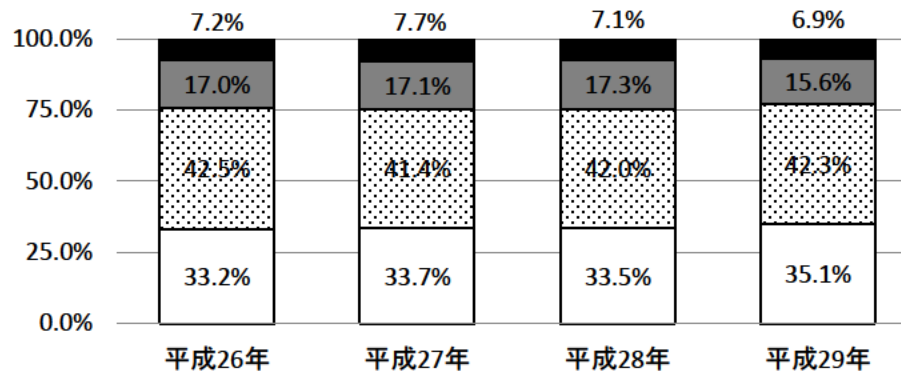
中学校



- 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる
 ■ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

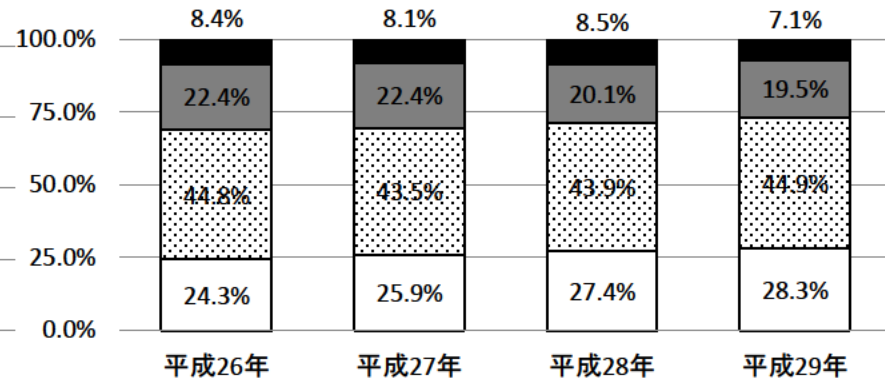
Q 自分には、よいところがあると思いますか

小学校



- 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる
 ■ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

中学校



- 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる
 ■ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

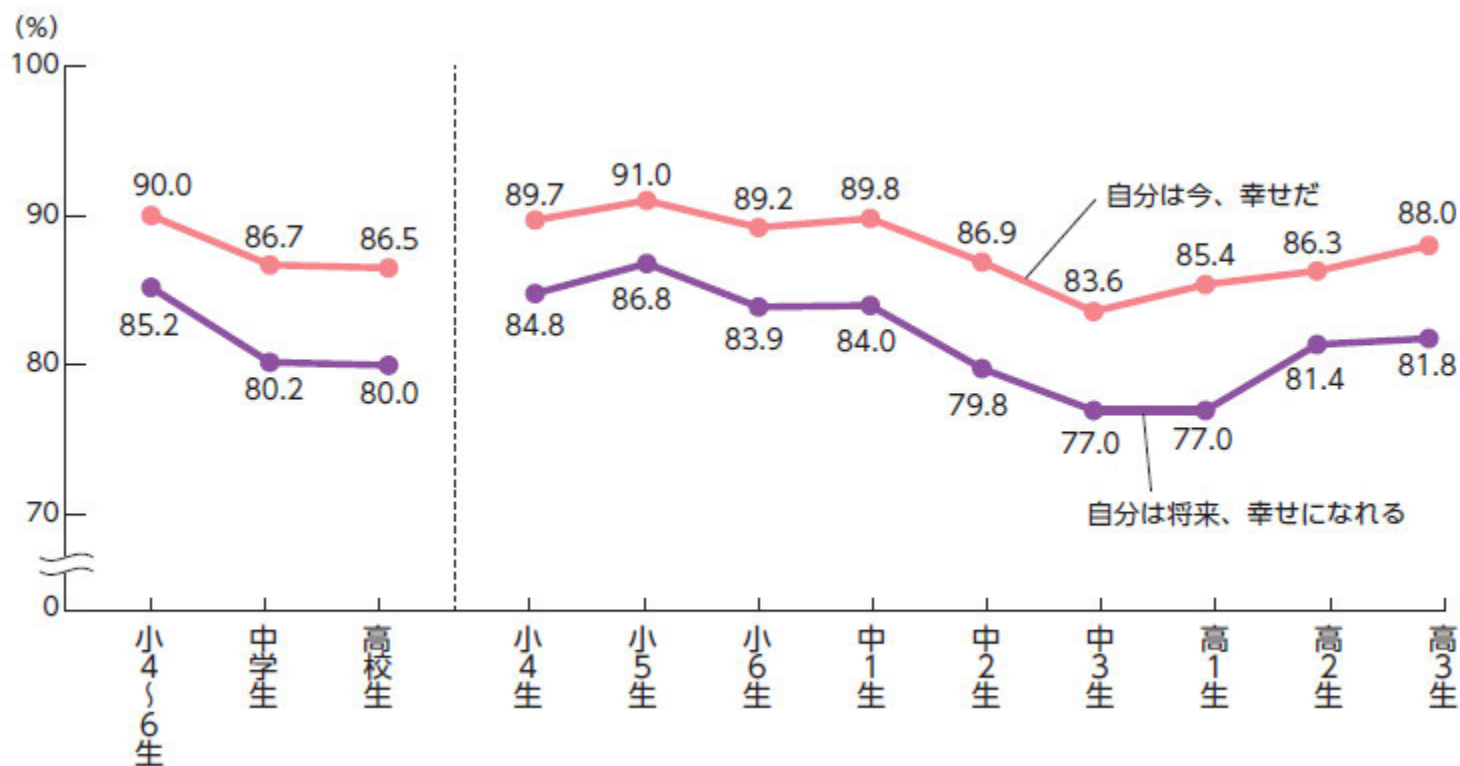
※ グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

【満足度・幸福感】

○「自分は今、幸せだ」と感じている子どもは8～9割である。学年差は小さいが、小5生がもっとも高く、中3生がもっとも低い。また、「自分は将来幸せになれる」の比率は7～8割台で、「今」と比べると「将来」のほうが、どの学年でも5ポイント前後低い。

Q あなたは、次のことをどう思いますか。

幸福感（現在・将来）（学校段階別、学年別）

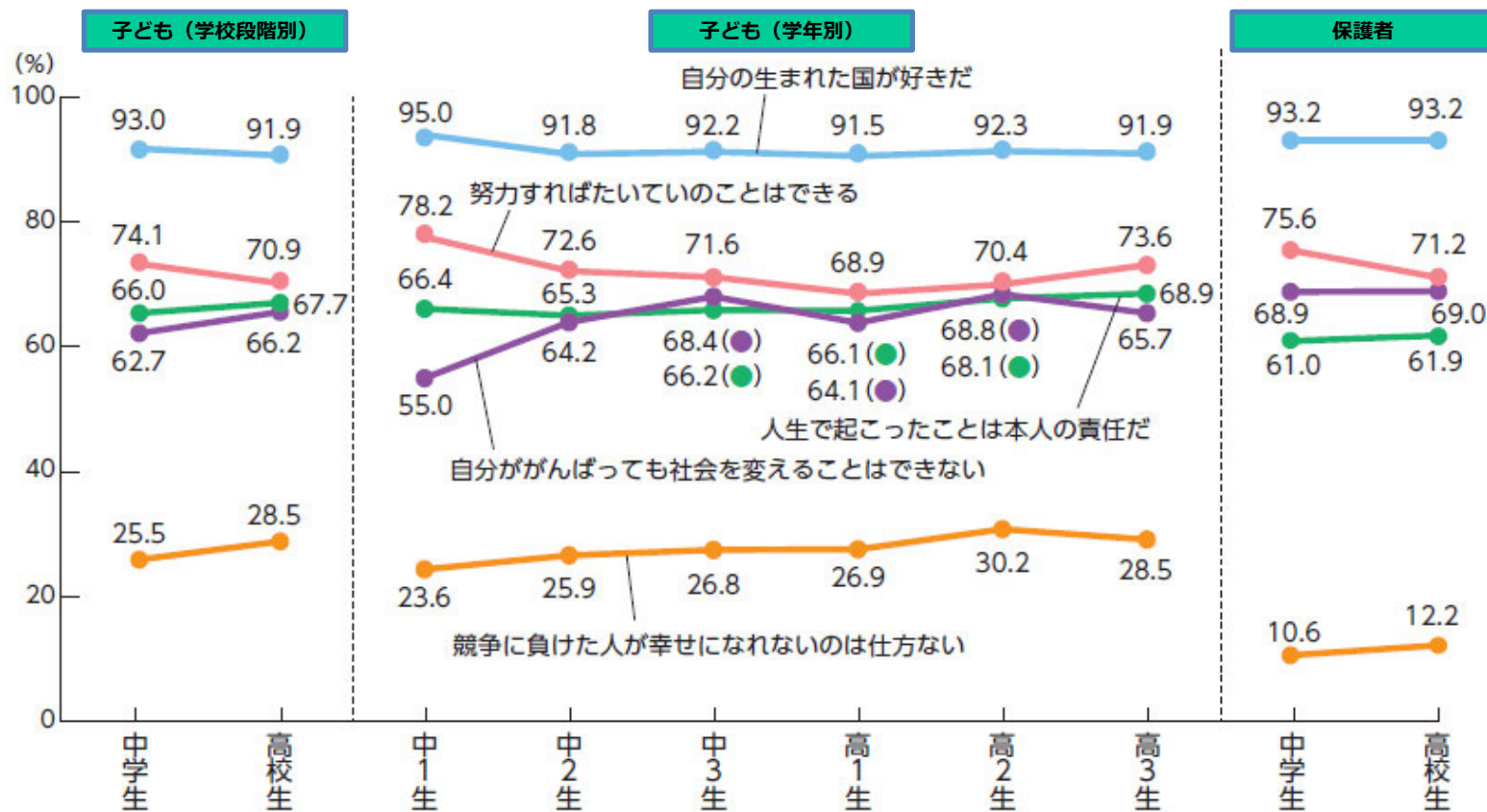


2 社会に対する意識

○中1生から中2生にかけて、「努力すればたいていのことはできる」の比率が減少し、「自分がかんばっても社会を変えることはできない」の比率が増加する。

Q あなたは、次のことについてどう思いますか

社会や競争についての意識（学校段階別、学年別）

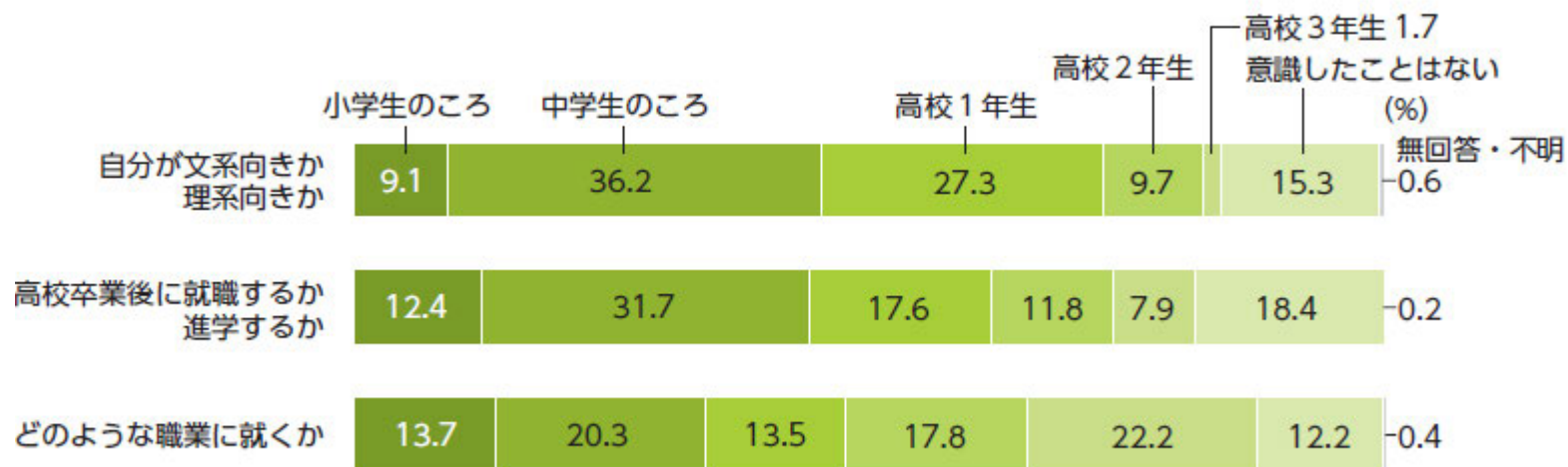


3 進路を意識した時期

○「自分が文系向きか理系向きか」「高校卒業後に就職するか進学するか」については4割以上が、「どのような職業に就くか」については3割以上が、中学生までに意識している。一方で、それらを「意識したことはない」という高3生も1～2割弱いる。

Q あなたが次のことを最初に意識したのはいつですか

進路を意識した時期（全体）



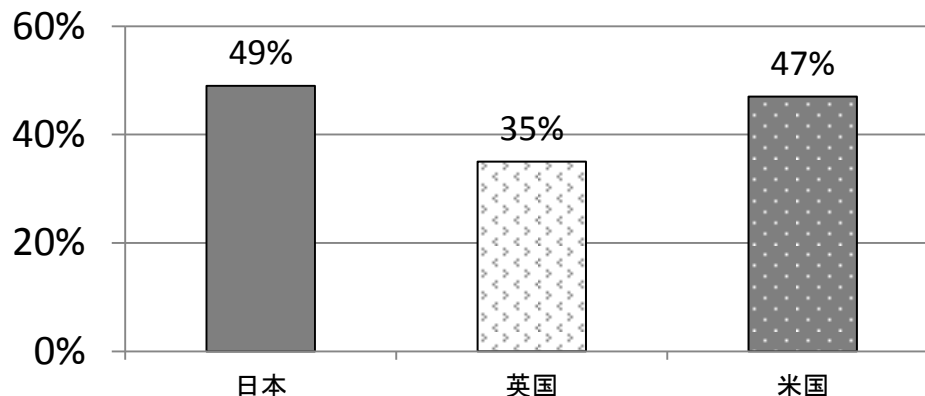
「高校生活と進路に関する調査」（平成27年11月18日）ベネッセ教育総合研究所

急速な技術革新

○2030年頃には、第4次産業革命ともいわれる、Iotやビッグデータ、AI等をはじめとする技術革新が一層進展し、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0）の到来が予想されている。

○今後10~20年後（2030年前後）には、日本の労働人口の49%がAIやロボットにより代替できるようになる可能性も指摘されている。

人工知能やロボット等による代替可能性が高い労働人口の割合
（日本、英国、米国の比較）



（株）野村総合研究所「国内601種の職業ごとのコンピューター技術による代替確立の試算」（平成27年12月2日）（英オックスフォード大学オズボーン准教授、フレイ博士の共同研究）

※労働政策研究・研修機構が2012年に公表した「職務構造に関する研究」で分類している、日本国内の601の職業に関する定量分析データを用いて、オズボーン准教授が米国および英国を対象に実施した分析と同様の手法で行い、その結果をまとめたもの。あくまで、コンピューターによる技術的な代替可能性のため、実際に代替されるかどうかは、労働需給を含めた社会環境要因の影響も大きいと想定されるが、本試算においてそれらの社会環境要因は考慮していない。また、従事する一人の業務の一部分のみをコンピューターが代わりに遂行する確率や可能性については検討している。